

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300089		
法人名	医療法人 社団誠仁会		
事業所名	グループホームめおといわ「はなみずき」		
所在地	福岡市城南区松山2丁目8-3 (電話) 092-407-0297		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 2 日	評価結果確定日	令和 4 年 2 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- 「一人一人が利用者様の身になって介護サービスを提供する」という法人理念に基づき、「入居者様の思い・意思を尊重した暮らしの援助」という事業所理念を掲げ、入居者の尊厳を常に念頭に置いた介護サービスを心掛けています。
- コロナ禍の中で思うように実施できないことも多いですが、感染予防対策を徹底し、対応方法について職員間で常に検討し合いながら、入居者の思いを奪わないようにケアにあたっています。
- 同敷地内に診療所があるため非常に連携がとりやすく、健康状態に異常を発見した際には早期の対応が可能で、入居者およびご家族にも安心してご利用いただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 12 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市内中心部からのアクセスもよい閑静な住宅街に位置し、古くからの住宅と新しい住宅の混在する地域で、在宅サービスの拠点としての役割を果たしている。事業所の母体である医療法人や隣接するクリニック、同法人の訪問看護ステーションとの連携により、医療において、24時間対応可能な体制がある。職員は、理念にもあるように、利用者一人ひとりの思いを大事にした支援を心がけ、地域や家族とのつながりを大切にする温かい事業所を目指している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はスタッフの意見を集約し、今年度見直しを行った。法人理念および事業所理念はスタッフルームに掲示し、朝礼の際に唱和することで共有を図り、ケア実践時の指標となっている。	「利用者様の思い・意思を尊重した暮らしの援助」との理念を掲げ、毎朝朝礼で唱和している。開設以来、地域とのつながりを大事にし、積極的に地域と交流が実践できている。理念の中にも取り入れるように現在検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域との交流は思うように行えていないが、入居者の散歩や出退勤時に地域の方とお会いした際には、挨拶や会話をしている。	事業所は、同一建物内の小規模多機能型施設や通所介護と一緒に介護事業部として自治会に加入している。コロナ禍以前は、事業所が主催する「健康セミナー」で地域住民を対象に体力、バイタル測定や体操、講義、フリーマーケット等を企画し、地域から住民が参加していた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時(見学时)などに施設のことだけでなく、今現在の困り事についても聞き取りを行い、情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議はコロナ禍のため行っていない。	コロナ禍以前の運営推進会議には、地域からは民生委員や社協職員が参加し、地域包括支援センターや行政への参加の声かけも行っていた。コロナ禍の現在も、運営推進会議の構成員に、随時情報提供を行っている。	アンケートを同封する等、第三者からの意見を取り入れてサービス向上に活かすことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行っていた際は、包括や区役所の方に来て頂き、問題解決に協力してもらっていた。	行政や地域とバランスのよい連携・協力体制が取れている。地域からの相談を事業所から行政に繋げた事例もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束を行わない方針であり、赤外線センサーを導入するなどの工夫をし、身体拘束せずに転倒予防するように努めている。行動制限廃止委員会をつくっており、入居者の安全のためやむを得ず身体拘束を行う場合においても、入居者の立場になり、委員会を中心に支援方法を検討している。	事業所は2階にあり、1階の玄関は施錠をしていない。帰宅欲求のある利用者の外出傾向を職員が把握しており、見守りながら支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内・外部研修に参加、伝達講習を行い、全職員に周知徹底を図っている。 また、虐待が見過ごされないよう、常に管理者やスタッフ同士で連携をとっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月実施している法人内研修の中で、年1回は権利擁護の研修を行っている。数か月前まで実際に後見人がついていた入居者がいたため、制度について学ぶ機会になった。コロナ終息後は外部研修などへの参加機会を増やし、さらに理解を深めていく。	成年後見制度や日常生活自立支援事業を実際に利用していた利用者が以前にいたため、管理者や職員は制度について理解している。制度のパンフレットを事業所に準備し、利用開始時の際に、必要に応じて説明を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者や家族が疑問や不安を残さぬよう時間をかけて説明し、理解・納得されたのを確認しながら行っている。また、改定があった場合はその都度説明を行い、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に内外部の苦情受け付け窓口の電話番号を紹介している。また、意見箱を設置しており、意見があれば改善に向けスタッフミーティングを行い、了承を得て掲示板に一定期間掲示している。	利用者が食べたい物があれば買いに行ったり、事業所内の行事を充実させるなど、積極的に外出ができない状況の中で、生活の中に楽しみを感じてもらえるような支援に努めている。家族から面会の希望があり、感染対策のうえ、面会を開始する等、家族からの意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを開き、業務改善などスタッフの意見を取り入れる場を作り、意見交換を行っている。また、管理者は半年に1度スタッフ一人一人と個人面談を行い、意見を聞けるようにしている。	外部評価の自己評価について、全職員で行って管理者がまとめている。年に2度管理者が全職員と面談の機会を持ち、職員が相談できる機会を設けて目標や課題の共有し、達成状況を評価している。行事については、すべて職員からの提案で企画されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間116日の休日を確保しゆとりある就業環境の整備と、資格取得者には給与に反映する等意欲の向上に努めている。産休や子育てに対しても柔軟な対応が出来るようにしており、また、資格取得に対するバックアップ体制も充実している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については性別や年齢で排除することなく、介護に対する気持ち・熱意を大切にしている。現在20歳代から70歳代の男女職員が勤務しており、資格取得のための勤務調整をはじめ、社会参加や自己実現の機会が得られるように配慮している。	定年はあるが、パート勤務として継続雇用も可能である。男女比も半々で、性別や年齢で採用対象から排除するようなことはない。 法人内の他事業所への異動により、キャリアアップやキャリアアップも実践されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に沿ったケアを心掛け、常に入居者の人権を尊重することを指導している。毎月実施している法人内研修の中で、年1回は人権教育・啓発活動の研修を行っている。	介護事業部の教育委員会にて年間研修計画が立案され、人権に関する研修が実施されている。研修後はレポートの提出が求められ、提出されたレポートは、アドバイザーにより理解度の確認も行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は教育委員会が年間プログラムを立て、年間を通して定期的に勉強会を行っている。外部研修は勤務扱いとしており、職員育成に積極的に取り組んでいる。また福祉関係の資格取得を目指す職員に対し講習費用を一部補助する制度を設け、勤務調整をする等の応援態勢をとっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナの影響で外部の同業者との交流の機会が少ないが、管理者同士電話での情報交換は継続的に行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの申込であっても、本人への面接は必ず行い話をよく聞いている。計画作成担当が入居前に得た情報を紙面上で職員全員に浸透させ、入居者の歴史に応じたケアができるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当が家族の思いも紙面上に記入し、入居前に回覧している。入居前面接は一回で終わらせず、家族が納得するまで回数を重ねている。家族の困っていることや不安なことなどを聞き入れる姿勢で関係構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外の介護保険サービスや、高齢者施策の利用が必要な場合は、適切なサービスを紹介している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の個別の支援を考えて接している。常に利用者の視点に立ち、笑顔になれる支援を心掛けている。利用者と日常をともに過ごしながら共に育ちあう関係を築けるように努力している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメール等により、入居者の日頃の状況や体調変化等を家族に随時報告し、関係づくりを行っている。必要な場合には、面会回数を増すようお願いすることもある。特に終末期ケアには、家族の役割を明確にし、協力体制を強めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの場所や人・趣味等について本人や家族から確認するようにしている。面会に関してはコロナのため、場所や時間に制限があるものの、基本的にはいつでも歓迎している。また、本人や家族から外出・外泊依頼があった場合には、感染対策をしっかりと行っただうえで、極力実施できるように努めている。	利用開始前に家族からの聞き取った内容を職員が共有している。もともと同法人の小規模多機能施設や通所介護を利用していた利用者が、元の事業所の行事に参加することもあり、顔見知りの利用者や職員と行事を楽しむことが出来るような支援も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させないように職員が中に入り会話をしたり、距離を置いたり、興味ある物を一緒に楽しむことによって、入居者同士が関わり、支え合えるような関係づくりに努めている。また、ホールでの座席を考慮し利用者同士が気軽に良い関係が築ける様に配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院された方の面会に行ったり関係を途切れないようにし、家族や病院・施設からの相談に対応できる旨を退去時に説明している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で本人の意向を確認し、把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合には、表情変化や反応を見たり、家族から聞くなどして個々の思いや意向をくみ取っている。また、得た情報は申し送りノートに記録して職員間で共有し、より良いケアにつなげるように努めている。	意向や希望の把握について、利用者との日々の関わりの中で自然に行われている。日常の情報交換、月一回行われる全体カンファレンスやユニットカンファレンスを通して職員全体で共有されている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまで利用していた施設職員やケアマネおよび家族から今までのサービス内容や生活歴、暮らし方などを聴取し生活全般の情報把握に努めている。また、日頃の入居者や家族との会話の中から情報を得て、支援に活かしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活スタイルやその時々本人の状況を確認しながらケアを進めている。個々のカンファレンスやモニタリングを通し、有する力を阻害するケアや過剰なケアになっていないか検討している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との関わりの中で生じた課題についてはチーム全員ですぐに話し合い、本人や家族、医療等と相談し解決できるようケア構築している。また、定期的に行うカンファレンスの中でスタッフが意見を出し合い、必要に応じて随時計画の見直しを行っている。本人の思いや家族の希望も聞き、計画に反映させるようにしている。	職員の意見を聴取してケアマネジャーが計画案を作成し、再度職員に確認したうえで、利用者や家族の意見を聞いて作成されている。見直しは三ヶ月に一度行われ、随時見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個々の入居者の生活状況・心身状況を客観的に記録し、日々の申し送りや申し送りノートを通してスタッフ間で情報共有し、実践や介護計画に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診付添いや、買物援助等、入居者や家族の意向に出来るだけ添う支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため今年度は中止となったが、地域行事(夏祭りや餅つき等)に積極的に参加し、地域と友好関係を深めるような機会を作り、入居者が地域の一員として受け入れられるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に同法人の松山診療所があり、24時間の素早い対応が可能であるため、本人、家族とも安心して契約して頂いている。2週間に1度の定期訪問診療で入居者の体調管理を行い、急変時は電話連絡で速やかに対応される。	利用者、家族の意向に沿って、医療機関への支援を行っている。利用者や家族での受診が不安な場合には、職員も同伴している。利用者の受診時の情報については電話等で確認し、情報共有に努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	松山診療所と医療連携体制をとっており、事業所スタッフは松山診療所の看護師と密に連携を取り合い、入居者の健康管理を行っている。介護士が入居者の異変に気付いたときは、直ちに松山診療所の看護師に電話連絡し、指示を仰ぐことができる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必ず職員が付き添い、サマリーを持参する他、口頭にて医療機関に情報提供を行っている。入院後はスムーズな退院に向け、入院先のケースワーカーや医師、看護師と情報交換をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・家族説明の際に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を説明し、当事業所での「看取り」の体制があることをお伝えしている。状況の変化に合わせて、本人・家族の意思を都度確認するとともに十分な説明を行いながら、チーム全体で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	明文化された「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」について、利用者や家族に契約時に説明している。看取り状態になった場合には、家族、医療、介護の三者が連携して支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを備えている。AED装置を設置し、定期的にAEDの使用法についての講習や、心肺蘇生法の訓練を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備は業者の点検と定期的に自主点検を行っている。防災対策委員会を設置し、月1回開催している。年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練を実施している。訓練の際は民生委員や近隣住民にお声掛けをし、参加して頂いている。	防災委員会を設置し、月に一度各種の災害を想定してミーティングを行っている。避難訓練は消防署の立ち会いの下、年2回行われ、その内1回は夜間想定訓練を行っており、地域住民複数の参加もある。非常用備品についても、準備がなされている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇サービスの向上」を今年度の事業所目標に掲げ、適切な態度や言葉かけを行い、入居者の尊厳と誇りを損ねない支援に努めている。「接遇チェックリスト」による自己評価を定期的(7月、11月、2月)に実施し、自身の対応を見つめ直す機会にしている。	利用者への接遇に関しては、チェックリストを職員全員に配布して、自己評価を行うなど接遇改善に役立てている。プライバシー研修は研修計画に盛り込まれ、現場においても管理者から職員へ逐次話をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にゆっくりと話をする機会を作り、本人の思いや希望、日頃は言い難いこと等を聞き出せるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の意向やペース・体調に合わせて過ごして頂けるよう配慮している。朝起床する時間や入浴日に入浴拒否があったりした場合は無理強いせず、時間や日にちを変更している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は可能な範囲で本人に行って頂いている。衣類は本人と一緒に選ぶか、数枚提示して選んで頂くなど、本人の意思を大切にしている。イベントの際は外出着に着替えるなど、いつもと違ったお洒落の支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理済みのものが届くので、炊飯や盛り付け、食形態の加工などを事業所で行い提供している。パン食の提供など個人の食の好みにも可能な限り対応している。片付けは下膳やお盆・テーブル拭きなど、本人の力に合わせて出来ることを一緒に行っている。	職員と利用者は食事の準備、食事、後片付けを一緒に行い、同一テーブルで同一内容の食事をしている。食事に介助が必要で時間のかかる利用者には、利用者のペースにあわせて支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて食形態を刻み・ミキサー・ムースなどに加工している。3食とも食事摂取量をチェックし、必要な方には一日の水分摂取量もチェックすることで、目標摂取量が確保できるように支援している。また必要な方には主治医や家族と協議したうえで栄養補助食品を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の口腔内状況やADLに応じた口腔ケアを行っている。定期的に歯科の訪問診療があるため、連携を取り、より良い方法で適切な口腔ケアが行えるよう努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツにしないよう、尿便意が無い方でもトイレ誘導を行い、自力排泄に取り組んでいる。排泄チェック表を用いて排泄パターンを分析し、チーム内で検討したうえで個々の状態に合わせて誘導を行っている。	利用者個々の排泄へのサインを把握し、排泄・食事量チェック表を用いて、トイレ誘導を行っている。日中のトイレ誘導で布パンツへの改善が数例見られる。パットの大きいものから小さいものへ見直しも随時行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外のお茶やコーヒー、入浴後はスポーツドリンクなどを提供し、水分補給に努めている。また、必要な方にはベッド上での体操や腹部マッサージを行い、排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の日程は事前に決めているが、本人が拒まれる場合は日程や時間を変更するなど、無理強いすることがないようにしている。一人当たり週2回入れるようにしており、入浴が嫌いな方にも声掛けの方法やタイミングを工夫して、入りたい気分になった時に臨機応変に対応できるように努めている。	原則入浴設定日は月曜から土曜日までであるが、希望すれば日曜日にも対応している。入浴を拒否される利用者には、声掛けする職員を代えたり、時間をおいて誘導するなど工夫して支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態をみながら、本人と話し合って休息するか確認している、本人の好む明るさで、室温を都度確認しながら休んで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬情報は個別ファイルにてユニット内で管理しており、スタッフはいつでも確認・把握できるようにしている。新しい薬は使用後の状態を確認し、変化があれば薬剤師や医師へ報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、お盆拭きなど個々の力を生かした役割を持てるように支援している。また、楽しみを一緒にみつけ、笑顔を引き出すことができるよう話題提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人が発令する感染ステージに従って、外出を行っている。コロナの影響でいつでも希望通りにはいかない状況が続いているが、可能な時には家族支援のもと外出を行っている。感染ステージが緩和されれば外出レクリエーションなども再開したいと考えている。	コロナ禍ではあるが、最近散歩を復活させている。状況改善時には、コロナ以前の外出支援の内容と頻度に戻す意向である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族ともに金品の所持を希望されている方はおらず、トラブル防止のためにも金品の本人所持はご遠慮いただいている。外出レクリエーションなどの場合のみ家族に用意して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおり、自由に家族と連絡を取って頂いている。家族への連絡の際には必ず本人にも伝え、希望があれば電話に出て頂いている。はがきや手紙が届いた際には、必要な方は読んで内容をお伝えする支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配っている。特に冬場は入浴時のヒートショックに注意し、お湯の温度や浴室内の温湿度を確認し、チェック表に記入して管理している。廊下や居間には季節に合わせたレイアウトを施し、季節を感じて頂けるよう工夫している。	季節を感じさせるお雛様やクリスマスツリー等を飾っている。利用者の描いた来年の干支であるトラの絵、落ち付きのある油絵が所々に飾られている。職員の所作、話し方のトーン、音や照明にも利用者が落ち付ける配慮が見られる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテーブル以外の場所に椅子やソファを配置して一人になれる場所を確保している。ソファやバルコニーなど自由に移動できるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物等を持参して頂き、本人や家族の希望通りに配置し使用できるように援助している。家族の写真や絵手紙など目に付きやすい場所に飾っている。	家族写真、飾棚、衣装入れ、漫画本、化粧台など利用者の使い慣れたものや好みのものが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室まで段差がなく、壁には手すりを取り付けている。歩行される方が安全に移動できるようにテーブルや物品の配置を工夫している。壁にトイレの場所を示す矢印を掲示したり、トイレ扉にはトイレマークを張るなどして混乱が起こらないよう配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はスタッフの意見を集約し、今年度見直しを行った。法人理念および事業所理念はスタッフルームに掲示し、朝礼の際に唱和することで共有を図り、ケア実践時の指標となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域との交流は思うように行えていないが、入居者の散歩や出退勤時に地域の方とお会いした際には、挨拶や会話をしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時(見学時)などに施設のことだけでなく、今現在の困り事についても聞き取りを行い、情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議はコロナ禍のため行っていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行っていた際は、包括や区役所の方に来て頂き、問題解決に協力してもらっていた。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束を行わない方針であり、赤外線センサーを導入するなどの工夫をし、身体拘束せずに転倒予防するように努めている。行動制限廃止委員会をつくっており、入居者の安全のためやむを得ず身体拘束を行う場合においても、入居者の立場になり、委員会を中心に支援方法を検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内・外部研修に参加、伝達講習を行い、全職員に周知徹底を図っている。 また、虐待が見過ごされないよう、常に管理者やスタッフ同士で連携をとっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月実施している法人内研修の中で、年1回は権利擁護の研修を行っている。数か月前まで実際に後見人がついていた入居者がいたため、制度について学ぶ機会になった。 コロナ終息後は外部研修などへの参加機会を増やし、さらに理解を深めていく。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者や家族が疑問や不安を残さぬよう時間をかけて説明し、理解・納得されたのを確認しながら行っている。また、改定があった場合はその都度説明を行い、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に内外部の苦情受け付け窓口の電話番号を紹介している。また、意見箱を設置しており、意見があれば改善に向けスタッフミーティングを行い、了承を得て掲示板に一定期間掲示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを開き、業務改善などスタッフの意見を取り入れる場を作り、意見交換を行っている。また、管理者は半年に1度スタッフ一人一人と個人面談を行い、意見を聞けるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間116日の休日を確保しゆとりある就業環境の整備と、資格取得者には給与に反映する等意欲の向上に努めている。産休や子育てに対しても柔軟な対応が出来るようにしており、また、資格取得に対するバックアップ体制も充実している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については性別や年齢で排除することなく、介護に対する気持ち・熱意を大切にしている。現在20歳代から70歳代の男女職員が勤務しており、資格取得のための勤務調整をはじめ、社会参加や自己実現の機会が得られるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に沿ったケアを心掛け、常に入居者の人権を尊重することを指導している。毎月実施している法人内研修の中で、年1回は人権教育・啓発活動の研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は教育委員会が年間プログラムを立て、年間を通して定期的に勉強会を行っている。外部研修は勤務扱いとしており、職員育成に積極的に取り組んでいる。また福祉関係の資格取得を目指す職員に対し講習費用を一部補助する制度を設け、勤務調整をする等の応援態勢をとっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナの影響で外部の同業者との交流の機会が少ないが、管理者同士電話での情報交換は継続的に行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの申込であっても、本人への面接は必ず行い話をよく聞いている。計画作成担当が入居前に得た情報を紙面上で職員全員に浸透させ、入居者の歴史に応じたケアができるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当が家族の思いも紙面上に記入し、入居前に回覧している。入居前面接は一回で終わらせず、家族が納得するまで回数を重ねている。家族の困っていることや不安なことなどを聞き入れる姿勢で関係構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外の介護保険サービスや、高齢者施策の利用が必要な場合は、適切なサービスを紹介している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の個別の支援を考えて接している。常に利用者の視点に立ち、笑顔になれる支援を心掛けている。利用者と日常をともに過ごしながら共に育ちあう関係を築けるように努力している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメール等により、入居者の日頃の状況や体調変化等を家族に随時報告し、関係づくりを行っている。必要な場合には、面会回数を増すようお願いすることもある。特に終末期ケアには、家族の役割を明確にし、協力体制を強めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの場所や人・趣味等について本人や家族から確認するようにしている。面会に関してはコロナのため、場所や時間に制限があるものの、基本的にはいつでも歓迎している。また、本人や家族から外出・外泊依頼があった場合には、感染対策をしっかりと行っただうえで、極力実施できるように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させないように職員が中に入り会話をしたり、距離を置いたり、興味ある物を一緒に楽しむことによって、入居者同士が関わり、支え合えるような関係づくりに努めている。また、ホールでの座席を考慮し利用者同士が気軽に良い関係が築ける様に配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院された方の面会に行ったり関係を途切れないようにし、家族や病院・施設からの相談に対応できる旨を退去時に説明している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で本人の意向を確認し、把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合には、表情変化や反応を見たり、家族から聞くなどして個々の思いや意向をくみ取っている。また、得た情報は申し送りノートに記録して職員間で共有し、より良いケアにつなげるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまで利用していた施設職員やケアマネおよび家族から今までのサービス内容や生活歴、暮らし方などを聴取し生活全般の情報把握に努めている。また、日頃の入居者や家族との会話の中から情報を得て、支援に活かしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活スタイルやその時々本人の状況を確認しながらケアを進めている。個々のカンファレンスやモニタリングを通し、有する力を阻害するケアや過剰なケアになっていないか検討している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との関わりの中で生じた課題についてはチーム全員ですぐに話し合い、本人や家族、医療等と相談し解決できるようケア構築している。また、定期的に行うカンファレンスの中でスタッフが意見を出し合い、必要に応じて随時計画の見直しを行っている。本人の思いや家族の希望も聞き、計画に反映させるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個々の入居者の生活状況・心身状況を客観的に記録し、日々の申し送りや申し送りノートを通してスタッフ間で情報共有し、実践や介護計画に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診付添いや、買物援助等、入居者や家族の意向に出来るだけ添う支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため今年度は中止となったが、地域行事(夏祭りや餅つき等)に積極的に参加し、地域と友好関係を深めるような機会を作り、入居者が地域の一員として受け入れられるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に同法人の松山診療所があり、24時間の素早い対応が可能であるため、本人、家族とも安心して契約して頂いている。2週間に1度の定期訪問診療で入居者の体調管理を行い、急変時は電話連絡で速やかに対応される。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	松山診療所と医療連携体制をとっており、事業所スタッフは松山診療所の看護師と密に連携を取り合い、入居者の健康管理を行っている。介護士が入居者の異変に気付いたときは、直ちに松山診療所の看護師に電話連絡し、指示を仰ぐことができる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必ず職員が付き添い、サマリーを持参する他、口頭にて医療機関に情報提供を行っている。入院後はスムーズな退院に向け、入院先のケースワーカーや医師、看護師と情報交換をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・家族説明の際に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を説明し、当事業所での「看取り」の体制があることをお伝えしている。状況の変化に合わせて、本人・家族の意思を都度確認するとともに十分な説明を行いながら、チーム全体で方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを備えている。AED装置を設置し、定期的にAEDの使用法についての講習や、心肺蘇生法の訓練を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備は業者の点検と定期的に自主点検を行っている。防災対策委員会を設置し、月1回開催している。年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練を実施している。訓練の際は民生委員や近隣住民にお声掛けをし、参加して頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇サービスの向上」を今年度の事業所目標に掲げ、適切な態度や言葉かけを行い、入居者の尊厳と誇りを損ねない支援に努めている。「接遇チェックリスト」による自己評価を定期的(7月、11月、2月)に実施し、自身の対応を見つめ直す機会にしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にゆっくりと話をする機会を作り、本人の思いや希望、日頃は言い難いこと等を聞き出せるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の意向やペース・体調に合わせて過ごして頂けるよう配慮している。朝起床する時間や入浴日に入浴拒否があったりした場合は無理強ひせず、時間や日にちを変更している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は可能な範囲で本人に行って頂いている。衣類は本人と一緒に選ぶか、数枚提示して選んで頂くなど、本人の意思を大切にしている。イベントの際は外出着に着替えるなど、いつもと違ったお洒落の支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理済みのものが届くので、炊飯や盛り付け、食形態の加工などを事業所で行い提供している。パン食の提供など個人の食の好みにも可能な限り対応している。片付けは下膳やお盆・テーブル拭きなど、本人の力に合わせて出来ることを一緒に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて食形態を刻み・ミキサー・ムースなどに加工している。3食とも食事摂取量をチェックし、必要な方には一日の水分摂取量もチェックすることで、目標摂取量が確保できるように支援している。また必要な方には主治医や家族と協議したうえで栄養補助食品を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の口腔内状況やADLに応じた口腔ケアを行っている。定期的に歯科の訪問診療があるため、連携を取り、より良い方法で適切な口腔ケアが行えるよう努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツにしないよう、尿便意が無い方でもトイレ誘導を行い、自力排泄に取り組んでいる。排泄チェック表を用いて排泄パターンを分析し、チーム内で検討したうえで個々の状態に合わせて誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外のお茶やコーヒー、入浴後はスポーツドリンクなどを提供し、水分補給に努めている。また、必要な方にはベッド上での体操や腹部マッサージを行い、排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の日程は事前に決めているが、本人が拒まれる場合は日程や時間を変更するなど、無理強いすることがないようにしている。一人当たり週2回入れるようにしており、入浴が嫌いな方にも声掛けの方法やタイミングを工夫して、入りたい気分になった時に臨機応変に対応できるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態をみながら、本人と話し合って休息するか確認している、本人の好む明るさで、室温を都度確認しながら休んで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬情報は個別ファイルにてユニット内で管理しており、スタッフはいつでも確認・把握できるようにしている。新しい薬は使用後の状態を確認し、変化があれば薬剤師や医師へ報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、お盆拭きなど個々の力を生かした役割を持てるように支援している。また、楽しみを一緒にみつけ、笑顔を引き出すことができるよう話題提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人が発令する感染ステージに従って、外出を行っている。コロナの影響でいつでも希望通りにはいかない状況が続いているが、可能な時には家族支援のもと外出を行っている。感染ステージが緩和されれば外出レクリエーションなども再開したいと考えている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族ともに金品の所持を希望されている方はおらず、トラブル防止のためにも金品の本人所持をご遠慮いただいている。外出レクリエーションなどの場合のみ家族に用意して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡の際には必ず本人にも伝え、希望があれば電話に出て頂いている。はがきや手紙が届いた際には、必要な方は読んで内容をお伝えする支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配っている。特に冬場は入浴時のヒートショックに注意し、お湯の温度や浴室内の温湿度を確認し、チェック表に記入して管理している。廊下や居間には季節に合わせたレイアウトを施し、季節を感じて頂けるよう工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテーブル以外の場所に椅子やソファを配置して一人になれる場所を確保している。ソファやバルコニーなど自由に移動できるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物等を持参して頂き、本人や家族の希望通りに配置し使用できるように援助している。家族の写真や絵手紙など目に付きやすい場所に飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室まで段差がなく、壁には手すりを取り付けている。車椅子自走される方が安全に移動できるようにテーブルや物品の配置を工夫している。トイレ扉にトイレマークを張るなどして混乱が起こらないよう配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		